議会だより
ここのえ

野上中学校体育祭

No.95　2011.10.17発行

9月定例会

- 23年度補正予算及び追加議案　P.2
- 常任委員会報告　P.3
- 特別委員会報告　P.3
- 一　般　質　問　5人　P.6～10
- わたしのひとこと　P.11

松　木　甲斐　素純さん
川西三　若杉　廣子さん

発行／九重町議会
編集／議会広報特別委員会
平成23年9月17日

〒879-4895 大分県玖珠郡九重町大字後野上8番地の1
☎0973－76－3814・FAX 0973－76－3809
メールアドレス（議会事務局）gikai@town.kokonoe.lg.jp.

平成23年　第3回定例会

本定例会は9月6日～22日までの17日間開催され、
議案25件、請願1件、陳情1件、発議2件を慎重に審議しました。

一般会計補正予算（第2号）

補　正　額　1億9,337万4千円 増額
補正後の額　71億7,018万2千円

補正予算　ピックアップ

- 消防施設整備事業（消防詰所、防火水槽）　1,860万2千円
  ※詰所（4～8野上中央新築）（6－13野矢改修）防火水槽（書曲新設）
- 消防団損害補償掛金　957万6千円
  ※東日本大震災により東北地方の消防団員215人が殉職し、この補償金に対し全国自治体から拠出（九重町分）
- 観光振興事業（団体旅行誘致緊急対策事業）　300万円
  ※大分県旅館組合に事業委託　バス20人～29人まで1台20,000円　30人以上30,000円
- 基金積立金　1億3,000万円
- 教育振興費（部活動送迎バス等借上料）　90万円
  ※中学校の部活

一般会計補正予算（第3号）

補　正　額　33万3千円
補正後の総額　71億7,051万5千円 に決定

補正予算の主なもの

- 観光振興事業（予備費から充当）　900万円

補正予算質疑

Q 住民基本台帳システム改修委託料は、在住外国人数に対する改修費は多額ではないか。

A 多額の費用であるが、国の指導で来年度施行による改修費用である。

Q 企業等、農業参入推進補助金がイオンアグリに交付するとあるが、その目的は何か。また栽培野菜の中で、夏場のレタスが出来るのか。十分な議論がなされたのか。

A 県の推進事業で町負担分である。またイオン流通網を活用し地域の活性化に期待し交付した。数種類の野菜も栽培予定である。県と企業参入は協議している。

Q 教育振興の各中学校部活動の移動に関する予算の内容を聞きたい。

A 各中学校の実績状況を調査し配分する。移動手段は、貸切バス、路線バス、タクシー、汽車等の利用を想定している。

Q 統合中学校建設工事の入札において、辞退や失格があったと報告を受けたが、町として、どう受けとめているか。

A 補助金の関係もあり、今年度進捗率を45％としており、多くの作業員数や資材の確保、工事価格等の問題での結果と推測している。

Q 町水道の麻生原地区での内容は。

A 小園から、麻生原集落まで2000メートルで、配管口径は75ミリメートル、受益者は25戸である。

総務建設産業常任委員会

議案　4件
請願　1件　　審査報告

議案第30号「九重町過疎地域自立促進計画の一部変更」は、産業振興及び生活環境分野について、二つの事業を新に追加するものです。

地域農業水利施設（ストックマネジメント）は、小園水路、網掛水路、畑水路、下敷水路、松葉頭首工等の既存する農業水利施設に機能保全対策を施し、長寿命化を図り維持管理を低減しようとするものです。

野上簡易水道給水区域拡張事業については、麻生原地区対象戸数25戸の慢性的水不足を解消するため、野上簡易水道の給水範囲を麻生原地区まで拡張を行うものです。

何れの事業も、生産基盤・生活基盤として必要不可欠な水の安定供給を図るためのものであり、**適当である**との結論に達しました。

▲町道日ノ迫線現地視察

議案第33号「町税条例等の一部改正」については、不申告者に対する過料・罰金及び寄附金税額控除の適用下限限度額の見直し、肉用牛売却の特例適用年度及び上場株式等に係る配当所得の町民税課税の特例期間の延長等を主とした、地方税法の一部改正に伴い町税条例を整備するものであり、**適当である**との結論に達しました。

議会第34号「道路廃止」と、議案第35号「道路認定」は、町道日ノ迫線の延長分を町道に認定することと、一部を支線として町道に認定するために、一旦道路廃止を行い新に町道日ノ迫線、町道日ノ迫支線として道路認定を行うものであり、**適当である**との結論に達しました。

請願受付番号第2号 大分県地方自治研究センター理事長 中山敬三氏からの、「地方財政の充実強化を求める意見書採択」については、東日本大震災の復興費は国の責任において確保し、自治体の財政が悪化しないよう各種施策を講ずること、社会保障等のセーフティーネット対策の充実を図ることなど、財政需要を取り入れた平成24年度の地方財政計画を求めるものであり、請願の趣旨は理解できることから**採択する**こととし、国に対して意見書を提出することで意見の一致をみました。

▲麻生原の現地視察

追加議案

統合中学校　工事決定
13億3,379万円

契約の対象　建築主体工事
　契約の金額　10億2,900万円
　契約の相手方　東洋・ナカノス建設工事共同企業体

契約の対象　電気設備工事
　契約の金額　1億4,727万円
　契約の相手方　日本電設工業株式会社　中九州営業所

契約の対象　機械設備工事
　契約の金額　1億5,752万円
　契約の相手方　株式会社　大日

平成22年度決算審査特別委員会設置

決算関連9議案を附託

委員長	日野康志
副委員長	池部俊慈
委員	佐藤勝憲
	大津留敏加
	有吉富生
	佐藤明郎

教育民生観光常任委員会

施設整備課

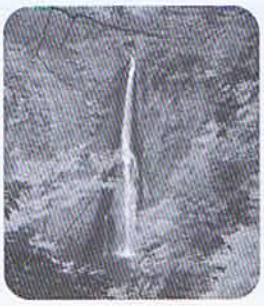
Q 統合中学校の建設業者が確定したが、地元業者の受入れについてはどの様に指導するのか。

A 地元業者の受入れは契約前から説明しているが、今後できる限り指導していきたいと思っている。

九重"夢"大吊橋施設

Q 震動の滝の遊歩道兼大吊橋の管理道の計画は。

A さまざまな方法で検討しているが工事費が大きい事と管理の問題等があり今後さらに検討を重ねたい。



▶紅葉の震動の滝

教育振興課

Q 中学校の部活における生徒の安全移動は。

A 県内で発生した事故を受けて生徒の安全移動と、保護者の負担軽減のために90万円を計上して4校で話し合いながら、バスやタクシーなどの公共交通機関を使用することにした。

商工観光課

Q 九重町への観光客の安定滞在型への方法と取り組みは。

A 東日本大震災、原発事故等により、県内観光業界が非常に厳しい状況にある中、団体旅行のバス料金を一部助成し、誘客の促進を促すために、九重町団体旅行誘致緊急対策事業に取り組み、県が1/2補助し、町が300万円（バス100台分）を旅行エージェントに助成する。

陳情

中須区長、中島学氏からの、中須集会所の建て替えを求める陳情は。

中須集会所は内外装など老朽化が著しく、隣接する演習場の爆音と振動で会合等に支障をきたすことから理解できるとして採択することで意見の一致をみました。

議会改革特別委員会報告

第一歩はおでかけ議会

議会改革とは

議会のあるべき姿、資質の向上に向け、まずは議員個人個人が自覚、努力するべきことが基本です。その上で議会全体として町民の意思を代表する機関として機能を充実発展させていく必要があります。その為に何をすべきか。特別委員会を中心に検討を重ねています。

充分に時間をかけねばならない改革には慎重な検討を重ねつつも、すぐに取り組める改革には積極的にという総意に至りました。

おでかけ議会

議会は、町民の意志を代表する機関であり、身近な存在でなければなりません。町民の声を聞くことが基本であると考えます。

声を待つのでは無く、自ら皆さんの方へ出向き様々な声を聞かせて頂く、おでかけ議会を開催することとなりました。

アンケート

この取り組みは、少しでも皆さんの意見を聞かせて頂く為のものです。今回は、おでかけ議会の場でアンケートを実施し、内容の検討を重ね、より充実したものに拡大して行きたいと考えています。町民の望む議会改革についても意見を伺う内容も入れたいと思います。

委員会内容事前告知

それぞれの議案の審議は委員会重視であり、どの様な審議がなされているのか、より町民に公開することで理解と関心を高めて頂く為に、委員会の審議内容をケーブルテレビ等を使い、事前にみなさんに告知したいと思います。条件整備が整えば次回の議会より取り組みたいと思います。

おでかけ議会日程表

月　日	場　　所
11月12日	東飯田公民館（農民研修センター） 飯田地域交流センター（飯田公民館）
11月13日	野上公民館 南山田公民館

みんなで来ちょくれ

各会場19時開会

東飯田・野上地区	飯田・南山田地区
井上里子	坂本憲治
江藤一幸	佐藤勝憲
小川克巳	藤原三治
佐藤博美	有吉富生
日野康志	池部俊慈
大津留敏加	佐藤明郎
土井眞一郎	

（順不同）

1位　東小パイレーツ

1位　南小ファイターズ

参加チーム（女の子も数人）がせいぞろい！

プロ顔負けのすばらしいプレーの連続でした。

次回も楽しみにしています。選手の皆さん頑張ってください。

第14回 九重町議長杯 少年野球大会

平成23年９月25日
九重町野球場

リトル飯田

野上ヤングスターズ

淮園ジャガーズ

5人の議員が一般質問

ずばり町政を問う

保健師の増員を

増員を図り指導強化

江藤一幸

江藤 保健福祉センター内で、相談やアドバイス等行っているが、少子高齢化の中、家族構成も変化しており、保健師が訪問することが重要と考えるが。

町長 核家族の中、保健師の果たす役割は大変重要であり、保健師の増員等も行っている。昔から比べると巡回指導が少なくなっている。介護保険ができ、保健福祉センターが充実し、社協にもいろんな委託をしてきた。町内各地でいきいきサロンも行われている中、保健師の増員も図りながら指導を行っていかなければならない。

観光開発のルール作りせよ！

江藤 民間企業が、飯田で宿泊施設を建設しているが、地域住民を中心に脅威を感じていると聞く。すべての開発は、事前に町への連絡・調整・協議する仕組みを考えられないか。

町長 大分交通のホテルを民間企業が買い上げ、22年3月9日にプロジェクトの説明がありました。国立公園の第2種特別地域です。開発にあたっては環境省と十分協議を行い、地元に充分な説明をくださいと申し上げた。今社長にアポイントを取っています。地元・町・環境省と充分協議を行い進めるよう話したい。

▶飯田、宿泊施設の視察

ゼロ予算事業はどうか！

江藤 再生エネルギー特別措置法が成立し、売電価格が高くなると聞く。具体的な事業を推進している島根県や神奈川県等を研究し、取り組むべきと考えるが。

町長 太陽光発電は当町では山が多く、日照時間が短くどちらかというと小水力の方が良いと考える。地域の業者にお金が落ちる等のメリットもあろうかと思う。推移を見ながら検討すべき課題です。勉強させていただきたい。

▲再生エネルギー：ソーラー発電

飯田高原中村線の災害復旧を

県と協議・新工法も検討

有吉富生

有吉 県道飯田高原中村線の災害復旧は。平成17年に発生した被災箇所が仮復旧のまま残っているが、経過と地権者との交渉は。

町長 県道であり土木の管理です。隣接地の地権者と協議して来ましたが、買収条件等が折り合わず同意が得られません。努力はしていますが進展しておりません。工法を決定して改めて交渉を進める。

有吉 災害から6年の年月がたっており、住民の不安も大きい。地権者の同意が得られないなら他の対策を検討すべきだが、県はどう動いているのか。

町長 県はこの問題を解決するために工法等の検討を進めている。

有吉 再災害の危険性もあり、一日も早い完全復旧を望むが、今後の町としての取り組みは。

町長 県と共に協議して来たが、同意を得られなかった。災害でもあり、国・県への働きかけも常に行っており、今後も町として状況を見ながら努力する。

▲災害現場

観光宣伝の充実を

可能な限り検討する

有吉 観光及び地域振興について、町への入込客は多いが通過型となっている。滞在客を増やすには、知名度を高める宣伝を行うべきだが、どんな宣伝をしているか。

町長 観光協会や、県の関連組織、広域観光イベント参加やマスコミ、広告、パンフ等々で予算を考え可能な限りの宣伝を行っている。

有吉 効果のある宣伝を行うには、福岡を中心に九州内に力を入れるべきでは。

町長 今、九州内での宣伝を多く行っているが分析して検討する。

有吉 町有施設を、観光板、イベント情報板の設置場所として提供しては。

町長 町の観光案内板は一定の整備は出来ている。経過もあるので検討する。

有吉 吊橋周辺の計画であった振動の滝の滝つぼへの散策道はどう検討しているか。

町長 第2次計画として調査検討したが、大変な予算となるので当時の議員に報告し見送る結論となっているが、少しでも安く出来るよう調査して検討していく。

▲大阪での観光ＰＲ

学力と共に心の叫（さけ）びを聞こう

町全体での組織化を将来的に

佐藤明郎

佐藤 わが町の子どもたちは、自分のことをどう思っているのか。アンケートでの中身は、自分に良いところがない、将来に夢をもてない、学校が好きではない、決まりを守れていない等々、非常に高い割合で示されている。この心の叫びに応えずして、学力向上はありえないと考えるが。

教育長 このアンケート結果は、気になっており、その要因をしっかり把握する必要があると考える。現在学校現場で解決策を議論している。

心の暗を解くには

佐藤 自尊心や、自己肯定といった部分は、幼少の頃からの大人の係わりが大切であり、行政や学校現場だけでは限界があるのでは。

教育長 子育ての原点は、家庭にある事を再確認すると共に、地域と学校と家庭が一体となって連携するには、どう地域を巻き込むかが大きな課題と考えている。

「子どもの心を守る」具体策は

佐藤 これからの、子育て世代である保護者への働き掛けや、社会教育との関わり方など、あらゆる方策が考えられるが、今の厳しい現実の中で、具体策が必要と思われるが。

教育長 まだ、構想の段階だが、地域や家庭を巻き込まなければ、今の子どもたちの問題は解決できないと考え、「教育力向上町民会議」（仮想）なるものを立ち上げ、全ての教育課題を共に考えて行きたい。

▲心を育む通学合宿
（親元を離れ一週間）

子どもの医療費助成の今後は

当面は現状維持

－九重町の医療助成の手続き－

（償還方式といい）病院の窓口でいったん医療費を支払っていただき、後で役場窓口にて手続きをし、個人負担を超える額をお支払いする方法です。

佐藤 県下のトップをきって、九重町では中学生までの医療費助成を行っているが、近隣の市町では中学生までの医療費を全額助成しており、自己負担なしと聞く。若者定住を推進する観点から、九重町も考える必要があると思われるが。

町長 医療費が無料という事で、必要以上に受診する多受診や、夜間受診等の行為が増え、医療現場での重篤な患者の対応に支障をきたす可能性もある。

また、国としても医療費の増大につながるため、助成する自治体には交付金を減額している。同じ生活圏内であっても、制度のあり方や考え方に違いはあるが、今後担当課や関係者の意見を聞き、検討して行きたい。

●市町村単独助成（無料化）

《入通院》	3歳未満まで	大分市
《入通院》	未就学まで	別府市　中津市　日田市　佐伯市　臼杵市 津久見市　竹田市　豊後高田市　杵築市 宇佐市　豊後大野市　由布市　国東市 姫島村　日出町　九重町
《入院のみ》	中学生まで	別府市　中津市　佐伯市　津久見市 竹田市　豊後高田市　杵築市　宇佐市 豊後大野市　国東市　姫島村　日出町
《入通院》	中学生まで	玖珠町（23.4.1）

●九重町、小中学生の自己負担額

入　院	1医療機関ごと500円／日 自己負担上限：月14日（7,000円）
通　院	1医療機関ごと500円／日 自己負担上限：月4日（2,000円）

（未就学児・入通院自己負担額なし）

地産地消と組織の育成を

今年度中には組織を作る

佐藤博美

佐藤 地産地消は、観光と農業を結び付けることで、新しい町の魅力を創り出せると考えるが、組織の育成を含めて、どう考えるのか。

町長 町では、今年度中に地産地消の核づくりを進めるため、商工観光課や農林課、給食センターなどが中心となり、農業団体、観光協会、商工会等の団体が一同に会し、どういった組織づくりを進めるか、協議して行く。

▲子ども達の給食風景

地元の下請けを増すシステムは

佐藤 今回の、統合中学校建設入札要項に、地域貢献項目を入れたことで、町内業者の下請けでの参入が広がったと考える。今後の、町発注工事において何らかのシステムを構築し、入札に反映すべきと考えるが。

▲まもなく着工の統合中学校建設予定地

システム作りは今後の課題

町長 これまでも、入札業者に対しては、できるだけ地元事業者や地域の商店を使うようお願いしている。システムについては、今後の検討課題とさせていただく。

ケーブルテレビの充実を

佐藤 ケーブルテレビ放送での、農業講演会や人権講演会、各種コンサートなどを充実し、町民に興味を持ってもらう施策が必要ではないか。

▲ケーブルテレビ撮影中

制約があるが放送に努める

町長 機材や取材体制にある程度の制約があったり、また講師の同意を得ることなど著作権等の問題があることから、今後において可能な範囲で放送に努める。

猪被害 町独自の対策を

佐藤 現在の山間地では、猪の被害が多大であり、電柵では防げない。農地を守るため、町独自の対策が必要と考えるが。

▲猪による被害水田

獣害柵の設置と頭数を減らす対策も

町長 今年度は、鳥獣害対策協議会が窓口となり、獣害柵の設置に取り組んでいる。今期は、15地区で総延長16kmの設置予定であるが、抜本的な解決策にはならないと考えている。獣害柵と合わせて、捕獲を進めていくことなどで、頭数を減らす取り組みを、今後も続けて行く。

九重町に春よこい

いろんな方法で取り組みたい

藤原三治

藤原 農業委員が結婚支援をした時代があった。老人会が結婚支援をしている所もある。町内の未婚者は30才から60才までの男性が405人、女性133人となっている。少子高齢化や増加する限界集落の現状を解決するには早急に結婚支援に力を入れ、あらゆる方法、方向から取り組み、農業委員や老人会に報奨金を出して取り組んではどうか。

▲町主催の九重町に春よこいの見合いカップル

町長 結婚問題は大きな問題であり、歯止めの効かない人口減、少子化も緩和されると思う。町は8人の相談員を置いて、出合いの場を提供し、昨年は3組の成果があった。いい方法があれば、実践していきたい。老人会の力は考えていなかったがそれが実を結ぶなら老人クラブの会長さんと、協議をしていきたい。

自殺撲滅対策はどうする

藤原 **『話してよ一人で悩まず苦しまず』**

豊後大野市の標語です。

自殺者の多かった大野市では、250人のゲートキーパーを育成し、募集した標語をジャンパーに印刷し、ケーブルテレビを使い啓発グッズやフォーラムに取り組み成果を上げている。九重町は自殺者の比率が県下で最も高くなっている。中学生のアンケートでは夢や目標を持っていない子どもの比率が高くなっている。教育現場でも、くじけないあきらめない心の教育の指導を行い、豊後大野市に学び早急な対応をすべきではないか。

今後も力を入れ努力する

町長 九重町の自殺標準化死亡率は、高い時は全国平均の3倍近くと県下で非常に高くなっている。町は61万円の予算で、県と共に、市町村自殺予防対策事業に取り組み、パンフレットの製作や講演会を開いてきたが依然として死亡率は高い。難しい問題だが今後も啓発活動に力を入れ、絆を大事にする町づくりを進めていきたい。

有害鳥獣対策は率先して

藤原 狩猟者も銃の所持者も高齢化で半減し、被害は増加している。年間犬を飼い、銃の保管や手数料を払い、駆除に努力しているが県下では、通年奨励金を出している市町村が多くなり狩猟者の税や更新手数料を補助する動きも出ている。このままでは耕作意欲を失い耕作放棄地増加や人や車に危害を及ぼす事も考えられる。よその町村の動きはどうであれ九重町が率先して対策に取り組んでもらいたい。

▲箱ワナに入った山のギャング（猪）

予算編成の時に十分考慮し検討したい

町長 国家的な問題となっている有害鳥獣問題、温暖化や耕作放棄地等の問題で、年々大変な状況になっている。猟師がふえる事を願っており、通年奨励金や免許等の手数料の補助等少しでも猟師の意欲がわくことも考慮して、新年度の予算編成の時に十分考慮し、検討したい。

わたしのひとこと

新「中学校」に郷土学習を

松木 甲斐 素純さん

いよいよ、新「中学校」が誕生しようとしています。少しだけ産みの苦しみを経験した者の一人として、大いに期待をしています。素晴らしい環境の下、多機能な用途を含んだ学習施設が建設されると思いますが、肝心なのはその中身（魂を入れる）。

新中学校の生徒は、九重町の、いや日本の将来を背負って立つ若人として、夢と生きがいを持てる教育をしてほしいと思います。

九重町は「日本一の田舎づくり」を標榜し模索していますが、私はこれは町民一人ひとりが、この九重町のつまり郷土の良さを知ることから始まると思います（ふるさと再発見）。

九重町の将来を託する若人にこそ、郷土の素晴らしさを再発見・再確認してもらいたいのです。

そのためには、新中学校で月に一度（一限）は、「郷土学習」の時間を特設してほしいのです。3年間続ければ、九重町の多種多様なことを学べるはずです。それらを教える先生は、外部からの臨時講師陣で構成してはいかかでしょうか。つまり、「ようこそ先輩」です。

3年間のプログラムも提示したいのですが、もう字数が足りません。立派な校舎はできますが、それに伴う中身、魂を注入してほしいと思います。

▲活気あふれる南山田中学校の生徒たち

私のひとこと！

川西三 若杉 廣子さん

「私げんしは、昨夜からおだたっちょってあんまりねちょらんとよ」と試合前日の様子を風船バレー所属の奥さんからの声。風船バレーとは障がい者と健常者が一緒にプレーするスポーツです。

県大会や九州大会でのメンバーオーダー表の組み方にも気を配ります。試合に出る回数が少ないと帰りの車の中で文句を言われます。障がい者の方は試合に出る番を楽しみに待っています。

私はボランティアで風船バレー愛好会に所属し、社協の福祉車両を運転して各大会に会員を連れて行って、審判員をし試合にも出ます。ボランティアをしていると言うより、私の方が障がい者の方たちに風船バレーに入れて頂いていると思っています。風船バレーに障がい者の方が目を輝かせ、いつも真っ直ぐな思いが素敵だと思います。

ある時「こんなことにまで顔を出して好きじゃねえ」と皮肉を言われたこともありました。

私は他に民生委員・児童委員や九重ライオンズクラブでもボランティアに携わっています。私の願いは九重町にボランティアの方が増え、もっともっと障がい者の方に目を向けて欲しい。九重町で障がい者の方が今以上に幸せな生活をしてもらいたいと思っています。

人から何を言われようと私は今まで以上にボランティアを続けて行こうと思います。

▲風船バレー愛好会の仲間たち

傍聴へどうぞ

次回は12月上旬予定

思い出のアルバム No.7

飯田に陸軍飛行場

昭和６年千町無田の、簑原（みのばる）草原に三機の複葉機が福岡大刀洗からテスト飛行のため飛来した。

昭和６年当時 ▶
飯田蓑原飛行場（現朝日開拓地）
写真提供　飯田大字田野　小野喜美夫

飯田の日輪兵舎

昭和19年、前線で戦う特攻機の替わりに、自爆グラインダーの少年乗務員30～40人の養成所として使われた。

◀昭和３年３月
飯田日輪兵舎
写真提供　飯田大字田野
小野喜美夫

お手持ちのなつかしい写真をお貸しください。

編集後記

▼統合中学校の、工事請負契約も締結し、いよいよ建設に向けてスタートをきりました。平成23年度で45％の進捗率を目指し、24年度に完成、25年度には開校というスケジュールが組まれました。議会においても、九重町建設協会からの陳情を採択し、入札項目に「地元企業の活用」を取り入れたところでもあります。

地域の活性化は、行政や議会の重要課題であり、地域のシンボルになるであろう統合中学校建設には、ぜひ地元企業の参加が必要と思います。

また、ソフト面においても教育委員会をはじめ地域住民や行政が、夢があり未来を語れるようなそんな学校になってほしいと願い、一致団結して取り組んで行きたいと思います。

日野　康志

・広報委員長　坂本　憲治
・副委員長　藤原　三治
・委　員　日野　康志
・委　員　大津留敏加
・委　員　池部　俊慈
・委　員　佐藤　明郎

資源保護のためここのえ町議会だよりは古紙配合率100％の再生紙と植物性大豆インクを使用しています。